

## 今月の軽井沢

細江久美子（撮影・文）

### 雲場池



新緑から紅葉まで美しい景色を見せてくれる軽井沢の観光名所のひとつである[雲場池](#)  
私個人的にはこの雪景色がいちばん美しいと思っています

あなたに

寺山修司

書物のなかに海がある  
心はいつも航海をゆるされる

書物のなかに草原がある  
心はいつも旅情をたしかめる

書物のなかに町がある  
心はいつも出会いを待っている

人生はしばしば  
書物の外ですばらしいひびきを  
たてて  
くずれるだろう

だがもう一度  
やり直すために  
書物のなかの家路を帰る

書物は  
家なき子の家

（『寺山修司少女詩集』より）

小学生の頃、月に1度買ってもらえる講談社版『少年少女世界文学全集』を楽しみにしていた。背表紙に革を使ったしゃれた装丁の全集で、私は「アルプスの少女」「スイスのロビンソン」「赤毛のアン」「家なき子」「三国志」「聊斎志異」「ドン・キホーテ」などに出会った。学校の図書室では「ルパン」「シャーロックホーム」などを読み漁った。読むことは至上の快樂であった。

自分と似た体質をもつ書評家がいる。私が30代の頃、日刊ゲンダイという夕刊紙に書評を書いていた〈狐〉という男である。偶然目にしたその書評に羨望さえ抱いた。彼の文章には、私が忘れかけていた本を読むことの快樂があったからだ。毎週水曜日、〈狐〉の書評を読むためにだけ、その夕刊紙を買った。

その後、私は書評家の端くれになった。月刊誌『論座』（朝日新聞社）に年に数回文章を書くのだ。本の評価を書くのが書評だという考え方もあろうが、私にとってのそれは、書物への偏愛を語ることだった。取りあげる本は自分で選べるということが気に入って、10年もその仕事を続けた。書評とは無名の本への愛を語ることであり、「書物の海」に行くための「航海日誌」でもあった。れた伸びやかな喩によって表現されている。

[寺山修司](#)：1935-1983 青森県生まれの歌人・劇作家。演劇実験室を主宰。『われに五月を』『田園に死す』など。



Photo 細江久美子

## 「教えられること 教えられないこと」考

明石要一（千葉敬愛短期大学）

### ○「だるまさんが転んだ」は教えられるか

小学生で「だるまさんが転んだ」遊びができなくなっている、という。本当だろうかと疑問に思っていたら、ある幼稚園では危機意識を抱き、「だるまさんが転んだ」遊びをカリキュラムに取り入れている、という新聞記事を目にした。

皆さんは「だるまさんが転んだ」遊びは教えられると思いますか、それとも教えられないと思いますか。遊びのルールは教えられるでしょうが、「だるまさんが転んだ」という声を聴いて、止まるタイミングは、教えられないのではないのでしょうか。

私が今関心を持っているのは、この「教えられること」と「教えられないこと」の峻別です。なぜ峻別にこだわるのでしょうか。これを意識することが、これからの AI 時代を生き抜くことができるからです。（巻末の拙著参照）

これまで教育といえば、教えられることを前提としてきました。「教えられないこと」は視野になかったのです。自然に身につくことだ、と思われてきました。

それでは困るのです。これからの時代は「教えられること」と「教えられないこと」を自覚し、その基準をはっきりさせなければならぬのです。ヤクルトの元監督、野村克也さんはこのこと意識していた人です。

彼は監督就任の時、球団のオーナーに「四番を打てる打者とエースを任せられる投手を、外国からスカウトしてほしい」と要望しています。トップバッターや九番はキャンプなどで鍛えれば育てられるが、四番打者とエースは天性のものなので育てることができない、という持論を持っていました。

私は昌志先生と同じ野球少年だったので、もう一つ野球の話をしてします。

徳島県の池田高校野球部を率いた名監督・蔦文也さんも同じことを言っています。彼は入部した新生にはみんな同じチャンスを与えますが、入学時に遠投させるそうです。そして90メートル投げる者は文句なしにレギュラー候補にするそうです。地肩の強さは教えようがない、との認識です。

野村・蔦という両監督は、天性の才能と努力して身につく能力の違いを明確に意識していました。

### ○「教えられないこと」とは何かータイミングは教えられない

皆さんの身近で「教えられないこと」を探してみてください。それこそたくさんあるでしょう。誘い水として「タイミング」を紹介します。

大縄跳びがあります。縄に入る方法は、「縄が頭の高さに来た時ジャンプして飛び込むのです」と教えられます。しかし、なかなかうまくいきません。指導者が「今だ」と子どもの背中を押しても飛べないのではないのでしょうか。入るタイミングはなかなか教えられません。

話し方は教えられます。面白い話をするには、数字を入れ、ヒューマン・エピソードのような具体例を挙げ、そして最後にちよっぴりした夢と希望の話をするのです。「数字」と「例えば」と「夢と希望」をうまく駆使すればよいのです。

ところが、「間の取り方」は説明が難しいのです。漫才には「ボケ」と「ツッコミ」があります。突っ込まれたほうが、どのタイミングでボケるか、という「間（ま）」は教えることはできないのです。あの0コンマ1の瞬間に入れる合の手の手入れ方は、説明できないのです。つまり、話の「間（ま）」は教えるのが難しいのです。

もう一つ、事例を挙げます。魚群探知機はご存じですね。科学的な視点で魚の群れを探します。

海底何メートルにどんな魚がいるか、探知できるのです。科学の力は素晴らしいです。

この魚群探知機の使い方なら、説明書を読めばわかります。しかし、魚群探知機の操作を覚えたからといって、すぐに大漁とはいきません。網を打つ瞬間があるからです。ここに、熟練の漁師と新米の漁師の違いがあります。

熟練の漁師も魚群探知機を使います。彼の優れたところは、潮の流れを目で見て眺め、潮目を読み、網を打つ瞬間を決めることができるのです。潮目を読むことは、マネができません。名人芸です。網を打つタイミングは「今」なのです。

## ○正解のない社会に求められもの

AI が強いのは、想定内の出来事で正解がある課題解決です。筋道が分かる想定内の出来事は AI に任せましょう。これから私たちに求められているのは「正解」のない、想定外の課題解決の方法です。

そこで求められるのは、「論理」より「感性」です。「教える」より「育てる」です。伝え方は「文書」より「口伝」です。子育ては「手抜き」より「気を抜くな」です。心に残るのは「記録」より「記憶」です。学び方は「習う」から「慣れる」、そして「使いこなす」です。「ノートを書き写す」より「ノートをとる」への転換です。

最後に言いたいのは、「判断力」より「決断力」を育成することです。多くの子どもたちは、自己決定するチャンスを失っています。なかなか自分でボタンを押せないのです。

判断力は学校で教えることができます。子どもは自分がとった行動がよかったか、それとも悪かったか、選択がよかったか、間違っていたか、自分ではわかりません。価値判断は教師が決めてくれます。しかし、決断力は学校では教えることができません。決断力は、子ども頃は友達との遊びの中で、大人になってからは社会の荒波の中でしか育てられないのです。

子どもへの支援は、この決断力の育成に力を注いでほしいものです。

付記：なお拙著「[教えられること、教えられないこと](#)」—AI 時代こそ必要な温故知新の教育論（さくら社 2021、3）を参照

## 子ども研究ノート II . . . . .

### 英語・非暴力・地域 — 多文化共生に生きる

瀧口 優（白梅学園短期大学）

#### 1. 英語との出会い

私と英語との付き合いは中学校 1 年から始まりました。1 年の時は何とか授業についていけたのですが、2 年になって新しい先生になるとだんだんわからなくなって、2 学期ころからは平均点を取るのもやっとという状態でした。そのまま推移すればきっと今の姿はなかったと思います。幸か不幸か私の担任は今でいう体罰教師で、多くの生徒が叩かれたり正座させられたりということを体験していました。そんな教師に反発して「教師になる」と決意したのは 2 学期も半ばです。

周りに聞いてみると教師になるには大学を出なければならないこと、大学に入るためには英語ができなければならないことを知り、やさしい「ロビンソン・クルーソー」や「イソップ寓話」の英文を読み始めました。そして何とか高校に合格し、ESS というサークルに入りました。英語を学ぶためでしたが、当時の ESS では英語の歌を唄うことが中心で、3 年間英語の勉強をしながら英語の歌を覚えました。結果として東京教育大学の文学部にある英語学英文学専攻に合格し、そこから英語教師という道が開けました。

とは言っても大学時代は学生セツルメント活動に没頭し、英語を深めるということできませんでした。しかしそのセツルメント活動で得たものは私の教師人生に大きな力となりました。何よりも人間を豊かにとらえるということです。どんな荒れている子どもも「分かってほしい」という気持ち

と「できる」という自信を持ちたいという、後から考えれば当たり前のことなのですが、自分のからだにしみこみました。教員になってから、この子ども観を柱に教育活動を行ってきました。

## 2. 英語教師として

出身県の埼玉県立高校の教員となり、そこで新英語教育研究会（以下「新英研」）という民間教育研究団体と出会いました。2年目には自分の授業をまとめて発表し、それ以来年度末に自分の授業を振り返るという習慣が身につきました。「The Road to Tomorrow」は1号から45号まで続き、介護などで出せなくなった3年をはさんで現在最終の48号を目指しています。

新英研では英語教育を人間教育として位置づけ、授業の中で自らの生き方を問うことを目指し、人間らしい教材、自己表現、集団での学び、平和教育等に取り組んできました。人間らしい教材として、ヘレン・ケラー、チャップリン、キング牧師そしてアンネ・フランクを位置付け、関連する場所を訪ねてきました。ヘレン・ケラーはアラバマ州のタスカンビアに、チャップリンは彼が生活していたロンドンと彼のお墓のあるスイスの Vevey に、キング牧師はジョージア州のアトランタに、そしてアンネ・フランクはアムステルダムにある隠れ家となった記念館を訪れ、生の資料をもって授業に臨みました。教師が思いを込めた教材は、生徒の心に届き、高校生たちが自分の生き方を問い直す機会となりました。

また1980年代に学校平和宣言等が展開されたのを機に、担当クラスで英語での学級平和宣言、あるいは学校平和宣言を生徒と一緒に作り、それを世界の指導者に送りました。住所がわからなくても「ソ連」「モスクワ」「大統領様」で返事もらったものもあります。またグループで修学旅行中に会った外国人にピースメッセージを書いてもらい、それを読むことを通して世界の人々とのつながりを確信した生徒もいます。そうして出会った外国人との交流が今でも続いています。

25年間の高校教員を終えて白梅学園短期大学にうつり、教養科、保育科あわせて23年間英語教師として過ごしました。高校教員の時とスタンスは変わらず、新たな課題として福祉や保育、そして多文化共生などを英語の授業に組み入れて授業を行ってきています。特に1990年代から小学校への英語導入が具体化される中で、不十分な教育条件の中で実施することに警告を発してきましたが、小学校教員の養成を行っている白梅学園大学においては「小学校英語指導法」も担当しています。

## 3. 非暴力について

私が教員になった動機が「体罰」に対する反発でした。高校教師として英語の授業だけでなく、平和の問題に取り組んできた中で、自国の「平和」の名のもとに戦争を引き起こすということが繰り返されることに心が痛みました。私が大学にうつった1999年は国連が「平和の文化に関する宣言」と「行動計画」を採択した年でした。そして2000年は「平和の文化国際年」となり、2001年から2010年までが「世界の子どもたちのための平和と非暴力の文化国際10年」でした。「平和」だけでなく「非暴力」があってはじめて子どもたちが守られるという位置づけです。

英語の授業で学んだチャップリンやキング牧師に加えて、ガンジーやネルソンマンデラなどを視野に入れて「非暴力」を広げました。「平和の文化をきずく会」を設立し、20年間その活動をつづけました。また保育科のゼミナールでは「非暴力」をテーマに学生を募集し、20年間非暴力にかかわる内容を展開してきました。テレビ番組の暴力性、漫画の暴力性、映画の暴力性、絵本の暴力性、あるいは歌に見る暴力性など、あらゆるテーマを取り上げてきています。

最後のゼミナール発表では非暴力にもっとも反する「戦争」をテーマにアンケート調査を行いました。「これから世界で戦争が起こらないと思うか」という問に、小学校6年生が60%、中学校2年生で63%、高校3年生で76%が「いいえ」と答えています。でも本学の短期大学2年生は14%、大学では23%と少なくなっています。保育や福祉を学ぶ学生にとって人間の本质は非暴力であり、「戦争」などあってはいけないという願いが込められていると読み取りました。

## 4. 地域について

大学時代に「セツルメント」を経験した私は、教師になっても地域の重要性について考えることができました。高校教員の時は高校入試の在り方を考える「埼玉・高校入試を考える会」や小学校

から高校までの地域ネットワークづくりに取り組みました。大学に移ってからは川口で「不登校・引きこもりの親の会」を妻とともにスタートし、15年間自宅を開放してきました。小平に移ってからも同様の会を組織することを続けています。

大学では学生たちが自主的に動いてくれることもあり、先生方と協力して「子育て広場」の取り組みを進めました。短期大学生と地域をつなぐことをテーマに申請し、4年間の補助が実現しました。学生たちが地域に呼びかけ、保護者や子どもたちを大学に招き、創造的な遊びを提供するというものです。既にスタートから17年がすぎましたが、初年度より教員の一人として学生の成長を見守ってきました。

「地域ネットワークづくり」の研究に参加する中で、多くの人との交流が持てる人は人に対する信頼も高いという結果をえることができました。時まさに東日本大震災の中で、人のつながりがいかに重要であるかが問われました。一緒に研究を進めてきた教員のよびかけで、「小平西地区地域ネットワーク」(以下「西ネット」)を結成し、10年が経過しようとしています。地域の崩壊が進む中で、この西ネットの取り組みが少しでもその回復に貢献できたらと思っています。

## 5. 多文化共生について

1993年にベトナムの英語の先生を自宅に招いて以来、ベトナムとの交流や支援を続けてきました。大学時代にベトナム戦争反対の中にいた自分としては、何かしないといけないという思いを持っていました。それからほぼ30年、訪問は12回に及び保育園、小学校、高校、そして障がい者施設などへの支援を行ってきました。当初は保育園におもちゃを送るということでしたが、徐々に障がい者への視点を広げています。

一方小平市国際交流協会(KIFA)が一般社団法人になるための準備をすすめ、この4月より法人化します。地域に住む外国籍住民へのアンケート結果では、日本の人々との交流を望みながら孤立感や差別感を感じている人がたくさんいることがわかりました。4月以降はこのKIFAでの活動が広がります。あわせて小平市には朝鮮大学校があり、在日として様々な差別を受けている現状を知りました。この問題もあわせて考えなければなりません。

## 6. これからは

4月になったら今までのことがすべてなくなって新たな生活を始めるわけではなく、以上述べたことの延長として考えています。英語教育や言葉の教育の研究、地域活動の継続、多文化共生の取り組み、乳幼児と子どもの権利条約への関わり、そしてベトナム交流と支援です。

「年を取る」ということを50歳からはじめて、現在は30歳まで戻りました。「人間生涯発達論」(金田利子)にしたがって、まだまだ「発達」を楽しみたいと思います。竹内まりやの「人生の扉」の最後に「(体が弱っても)人生は生きる価値がある」と結んでいます。今までの人との出会い、仕事との出会い、英語との出会い、社会との出会い、そして世界との出会い、感謝するだけです。

## 子ども研究ノート Ⅲ

### 韓国「2019年改訂ヌリ課程」改定過程の研究

—ヌリ課程はどう変わったか

清水陽子(九州産業大学)・丹羽 孝(名古屋市立大学)

#### 1. 研究の目的と方法

##### (1) 目的

本研究の目的は2019年7月に改訂告示された、韓国の新しい国家水準幼児教育課程(「2019改訂ヌリ課程」と呼ばれる)の改訂の契機及び改訂背景を明らかにすることである。韓国の現在の幼児教育制度は教育部が管轄する幼稚園と、保健福祉部が管轄する保育施設(日本の保育所に相当するオリニジップ)の二元体制となっている。そしてそれぞれに適用されている国家水準の教育課程が

制定されている。

韓国の国家水準の幼児教育課程である幼稚園教育課程は、1969年に初めて制定されて以降、7度の主たる改訂過程を経て、2011年に韓国で初めての幼保統一教育課程である「ヌリ課程」が誕生した。しかし、この時は5歳児のみを対象とした限定的なものだった。その為、2012年には対象年齢を3-5歳へ拡大した「3-5歳年齢別ヌリ課程」へと改訂された。そして、今回の研究対象は、その改訂版の「2019改訂ヌリ課程」である。本稿は、①改訂背景、②改訂方向、及び③改訂過程の特徴を整理し、新しい国家水準幼稚園教育課程について改訂方向を正確に理解すると共に、日本の国家水準幼児教育課程の制定過程を考察する上での示唆点を導出したいと考えた。

## (2) 方法

私たちは国務総理傘下機関である育児政策研究所（白仙姫所長）を3度にわたって訪問し、資料収集した。そのなかでも『3-5歳年齢別ヌリ課程改訂（案）開発研究』（育児政策研究所研究報告、2017）は、開発過程に係る多くの情報を提供してくれる貴重な情報源となった。私たちは2017年から、その動向に注目し資料蒐集を開始したが、その過程で韓国幼児教育学会（鄭美羅会長）、乳幼児保育学会（鄭孝順会長）、本改訂案の作成に関わって主導的役割を果たした育児政策研究所（白仙姫所長）の研究委員の方々、韓国保育振興院（リュウヒジョン院長）の研究者の方々と面談調査を行って、資料と情報を入手した。

## 2. 韓国国家水準幼稚園教育課程の沿革

### (1) 幼稚園教育課程の沿革

まず韓国の幼稚園教育課程についての基礎理解を図るために、韓国の幼稚園教育課程の沿革を概観し、幼稚園教育課程の発展過程の特徴と内容を明らかにしてみたい。その理由の第1は、韓国における幼児教育は1914年に設立された梨花幼稚園（現梨花女子大学校師範大学附属幼稚園）を原点として、幼稚園教育が幼児教育の中心となって発展してきたという歴史があるからである。第2には、1945年の光復以後の韓国幼児教育の歴史もまた、幼稚園教育から再開されているからである。そして、この光復以後の幼児教育の出発点として位置づけられているのが、1969年2月に制定公布された「幼稚園教育課程」（第一次、文教部令第207号）である。この第一次幼稚園教育課程が、「ヌリ課程」のルーツである。

### (2) オリニジップ「標準保育課程」

ここではオリニジップに適用されている保育課程について、必要な範囲で説明する。

韓国のオリニジップで施行されている国家水準の保育課程は、2007年1月の「標準保育課程」の制定から始まっている。この標準保育課程の制定によって、韓国では保育課程についても、国家水準の教育課程を持つことになった。この「標準保育課程」は2012年2月に第2次、2013年1月に第3次改訂が行われたが、現在では「2019改訂ヌリ課程」に対応させた「第4次標準保育課程」が告示・施行（2017. 12）されている。

この「第4次標準保育課程」の特徴は、2020年12月に公刊された「第4次オリニジップ標準保育課程解説書」によれば、以下の7点である。①保育の正体性（アイデンティティ）維持と乳幼児保育の特性反映、②0~2歳児領域別保育内容は、第3次標準保育課程を踏まえながら、乳児保育の特性強調、③既存の年齢体系を継承して0~1歳、2歳、3~5歳（ヌリ課程）とした。④構成体系を調整して、領域、内容範疇、内容体系は維持して、細部内容を統合（水準別区分廃止）した。⑤既存の6領域は維持したが、内容は簡略化した。⑥乳幼児中心、遊び中心を追求している。⑦乳幼児の権利の個別保障の重視と、乳幼児を個別的な特性を持った固有の存在として尊重することを強調していた。

以上の内容は、概ね2019改訂ヌリ課程の改訂方向に対応したものであった。特に⑥は改訂ヌリ課程の重要なキーワードであり、それが標準保育課程でも共通に位置づけられていることは注目しておく必要がある。

### 3. 改訂過程とその特徴

#### (1) 改訂作業の出発点

「3-5歳年齢別ヌリ課程」の改訂作業が政策課題として意識された契機は、2015年に改訂された「初等学校教育課程」改訂だった。この初等学校教育課程は、OECD教育2030「未来教育と力量(The Future of Education and Skills)」が提起した、「未来社会が要求する核心力量(OECD)」の考え方に積極的に対応するために、幼児期から高校までにわたって各学校段階で到達すべき核心力量を明らかにした。そしてこの方向性を発展させる課題の一つとして、新しい幼児教育課程の必要性が提起されたのだった。

#### (2) 国家水準教育課程の改訂

韓国のこれまでの国家水準教育課程の改訂作業において、日本のそれとは大きく異なる特徴の一つとして、改定過程の透明性と公平性が指摘できる。以下、今回の改訂過程のステージに即して、その点に留意して説明してみる。

第一段階は、改訂の必要性と方向性が提起されて、改訂作業が開始されることである。改訂の必要性への提言には幼児教育・保育発展計画という政治的要因と、韓国幼児教育学会を中心とする研究的要因の2つがある。幼児教育発展計画とは「幼児教育発展基本計画2018～2022」(教育部)、保育発展計画とは「第3次中長期保育基本計画(2018-2022)」(保健福祉部)のことである<sup>1)</sup>。第二段階は、改訂背景と改訂方向及び課題に関する研究的基礎が準備された段階である。今回で言えば、育児政策研究所の研究報告(前掲)がそれにあたる。第三段階は、具体的に改訂案作成の体制が組織されたことである。この点に関しては、韓国は従前の改定過程からその原案作成を韓国幼児教育学会に委託し、韓国幼児教育学会はその委託を受けてTF(Task Force:作業部会)を構成し、改訂案作成に対応してきたという歴史がある。このように韓国では国家水準教育課程作成過程において、幼児教育研究者の専門性を重視し、積極的に活用するという点は極めて韓国的な特徴である。第四段階は改訂試案が整理され、最終案作成へ向けての検討が、様々な水準で行われる段階である。その中で注目すべき事の一つは、地域水準で開催される公聴会(現場フォーラム)を通しての意見収斂である。第五段階では、そのようにして作成された最終試案が教育部の担当者に手渡され、行政的精査を経た後、告示される。第六段階では、その現場適応に関する様々な政府支援の一つとして、「伝達講習」が行われる。そして、これらの過程を経て、本格的な現場適用段階へと到達することになる。

#### (3) 改訂の背景と方向

改訂背景として第1に強調されたのは、「各学校の教育課程との連携性」であった。それは、「追求する人間像」水準における連携であり、第4次産業革命に対備する新しい幼児教育の理念と内容の構築を意味していた。つまりこの連携は、第1に、2015年改訂初等学校教育課程との連携性、第2に、標準保育課程との連携性、第3に「核心力量」をキーワードとした国家水準教育課程としての全体の連携性を検討するという内容を含んでいた。とりわけ核心力量の内容についてはOECDの「Defining Selecting Key Competency」プロジェクトの問題提起を起点として、世界の幼児教育先進国の教育課程の分析を通じて、韓国独自の核心力量の具体化への試みが、改定案に反映されていることを見て取ることができる。詳しくはパクウネ他「世界の幼児教育課程動向に照らしてみる国家水準教育課程の改訂方向」が参考になる。<sup>2)</sup>

### 4. まとめ—改訂課題と改訂方向への提言内容

指摘された改訂課題の第1は、ヌリ課程の運営時間に対する考慮である。ヌリ課程は幼稚園と保育施設に適用される共通教育課程であるが、実際の運営時間では両者間に差異がある。本改訂試案では、これまでと同様に、一日4～5時間の運営時間を提示しているが、幼児の年齢や機関の差異に対応する融通性を付与することが必要である。

第2は、達成水準及び評価に対する考慮が必要だという指摘である。改訂過程で最初に研究陣が提示した案では、「年齢別細部内容の提示」と、「年齢別発達水準」を提示して、内容水準で達成水準を記述するようになっていた。しかし、議論の過程で「ヌリ課程の細部内容記述が、初等学校教育課程の成就水準記述と類似している」<sup>3)</sup>事が指摘された。

その後の議論では、年齢別に成就水準を提示するのか、5歳児のみに限定するのかという論点が

指摘されていた。さらには領域別達成水準を、どのような体系と内容で提示するかの議論の必要性も指摘されていた。

第3は、五領域区分に対する考慮の指摘である。改訂開発研究の当初は、五領域については議論しないという前提であった。しかし、検討過程で領域区分及び名称に対する意見が提示されたことを受けて、「ヌリ課程」の総論で提示する事が予定されている、「核心力量」に基盤をおいて区分するとか、初等学校との連携性を考慮して検討する等の可能性が指摘されていた。

第4は、年齢別内容提示について、検討の必要性が指摘されていたことである。この指摘内容は、今次改訂の中心的な課題の一つであって、後に公示された改定案では年齢別記述が廃止された。この議論の背景となった問題意識を紹介すれば、次のような内容だった。

「現在標準保育課程とヌリ課程改定以前では、幼稚園教育課程は年齢別ではなく、水準別に提示されていた。その理由は、幼児の発達を年齢別に明確に区分することの困難さにあった。学年区分が明確な初等学校教育課程は1-2学年、3-4学年、5-6学年群でくくられているので、ヌリ課程も水準別に提示されるべきだという議論もあった。従って、ヌリ課程の名称自体が「3-5歳年齢別ヌリ課程ではあるけれど、ヌリ課程の細部内容の提示においては年齢区分ではなく、もうすこし包括的で統合的な水準別提示等の方法を考慮することが指摘された」4)。

第5は、細部内容構成主体について考慮する必要性についての指摘である。

現行ヌリ課程及び改訂案は内容構成を現行通り内容範疇、内容、細部内容に区分している。今次改訂の課題の一つに、内容縮小の方向性が提起されているにもかかわらず、現行の内容構成体系を維持しての議論では、内容の簡素化は難しいと言わざるを得ない。結果として告示案では、この意見は大幅に採用された。

次に、政策提言として整理された改訂方向への提言の内容は、以下の三点である。

1) ヌリ課程の周期的及び、随時改訂体系の構築である。

ヌリ課程は2011年、2013年の制定以来5年経過したが、一度も改訂されなかった。また、初等学校教育課程の改訂(2015)にも対応できないという問題点があった。しかも初等学校教育課程は随時改訂体験を有しているが、ヌリ課程にはそれが無いという課題も指摘されていた。

2) 市・道単位機関水準における、ヌリ課程運営の自律性拡大である。

韓国の行政体系は構造的には日本と類似している。但し、その呼称が日本の県水準を道(全国で8つ)、市概念の内容は日本とは異なってソウルを特別市、それ以外の大都市を広域市と呼んでいる。韓国では国家水準教育課程の適用過程においては、国家水準教育課程を機械的に適用するのではなく、各地方行政機関や現場機関の特性を考慮して柔軟に運営することを提起している。

3) 「2019改訂ヌリ課程」の示範運用と、教師研修支援の強化である。

今次改訂では、現場に適用される前に十分な時間をとって後続措置が執られるようにする。また改定以降に、改定内容に則した多様な参考資料を開発して、現場の示範適用を経て、不足部分を補完し、十分な教員研修を推進すること等が提言されていた。

以上見てきたように、韓国の国家水準幼稚園教育課程改訂過程は、日本のそれとは大きな差異があり、改訂過程の透明性、専門研究者のさらなる活用等、示唆点が多い。

#### <註記>

1) 教育部「幼児教育発展計画 2018~2022 ; 公共性強化による幼児教育革新方案」2018. 3 ; 保健福祉部「第3次中長期保育基本計画 2018-2022」2017. 12

2) パクウネ・チョヒョンスク「世界の幼児教育課程動向に照らしてみる国家水準教育課程の改訂方向」(『幼児教育学論集』梨花女子大学校、2012)

3) 韓国育児政策研究所(KICCE)「3-5歳年齢別ヌリ課程改訂(案)開発研究」『研究報告 2017-26』、2017、p134

4) 同上

近況報告

○成澤布美子（表現活動家 こども支援士）

皆様にイギリス発祥のドラマ教育法『アプライド・ドラマ』をご紹介させて頂いてから、まもなく一年です。川崎市アートセンターで毎月開催しているワークショップは3年目。低学年の子ども達に向けて、パペットを使ったWSも同日開催。どちらも子どもと大人と一緒に経験し、楽しく学べる空間を心掛けています。「三枚のお札」や「リア王」など、昔話からシェークスピアまで、ドラマから人生を切り開く力、他者を認め、そのコミュニティの中で自分を活かせる力、主人公の生き様や選択から『自分だったら、どうする？』と問いかける大切な時間。私自身が子ども達の発想や考えに唸らせられます。「成る程！そういう考え方があったのか！」目から鱗もしばしば…本当に面白い時間です。宜しければ、ぜひ一度ご参加ください。

私事で恐縮ですが、昨年他界した父が愛した故郷・足利市に何か貢献できないかと、小学校や夏休み・冬休み・春休みに定期的にWSを始めています。フリーアナウンサー20年、子ども支援表現活動家15年、この経験を生かし『声と言葉と音』のWSも展開していく予定。声を育てるには、耳を育てることが大切です。

【表現には限りなし】心からそう思いながら・・・進んで参ります。

○今津尚子（九州女子大学人間科学部・こども支援士）

こども支援士として直接子どもにアプローチするというよりも、子どもを支援するボランティアの方々向けの講演依頼が多くなりました。子育て支援ボランティア養成講座や男女共同参画地域フォーラム等の講演会で話をさせていただき、コロナ禍ではありますが、対面やズームでの講演に区長さんも参加され、地域活性化にご尽力されていることを目の当たりにする昨今です。また、ローカルラジオのパーソナリティとしても現代の社会状況、話題の書籍・絵本、映画、音楽などをご紹介しながらYouTubeh 配信しています。2月の生放送では、ウクライナの状況について放送する中で、皆様ご存じだと思いますが、「てぶくろ」のウクライナ民話の絵本のご紹介をいたしました。野原に落ちていた手袋に動物たちが仲良く譲り合いながら入っていくお話です。

マザーテレサのお話を大学の授業でするので、「九女の MARIA様」と学生が呼びますが、教育者になる学生に教育の原点は「愛すること、愛されることの喜びを伝えること」と常々お話ししています。「平和な未来を子どもたちに！」現在、こども支援士として世界の子どもたちに何ができるか模索しています。

「幸せ」—堤 江実 POEMより—

あなたはだれの幸せですか？  
 あなたの笑顔 あなたの言葉  
 なによりあなたが生きていること  
 そのことだけで  
 幸せとってくれる人のいる  
 幸せ

## 句会 むさしの

### ○野水仙石垣りんの墓の前

安田 勝彦

仮の世と思ひて苦なし猫柳

秩父嶺の兜太の声や風光る

冬の寒さが残る中、春の息吹を少しづつ感じられる今日この頃です。石垣りんさんは、「表札」などの詩で有名な詩人で伊豆半島の先端の南伊豆にお墓があります。偶然にも私の父母の墓と斜前の位置にあり墓参りに訪れたときの一句です。南伊豆は、野水仙が沢山咲き石垣りんさんにはぴったりの花です。俳人の金子兜太さんは、埼玉県秩父出身で2月が忌日ですが、兜太さんの野太い声は、春を呼ぶ声のようで風光るです。

### ○春の雪重き日暮れとなりけり

市原 潤

ばたん雪地蔵の手にも降り積もる

うららかや無為に満たさる日もありて

もう2月も終わりですね。

幸いに信州上田は雪は殆ど消えて今日は穏やかな日です。

以前、白馬村に住んだことがあって、雪には随分悩まされましたが、それでも朝には、村の道路は除雪されていたことを思うと、4メートルもの積雪は本当に大変だとおもいやられます。

怒りさえ力に変えて金メダル

パラリンピックを待たず戦争始まれり

椅子に置いた鍋の中に6時間も立たされたと、報道されています。愛という字が入った名前のその子は、その時間どんなことを思っていたのでしょうか。コロナ禍の巣ごもりの中、虐待、貧困、DVなどの問題がさらに先鋭化しているようです。そんな憂いを持っていたら、過日の学会ワークショップで金城先生から、ACEs（子ども時代の逆境体験）のことを教えてもらいました。子どもたちの平安を心から願う今年です。

2句目は、平野歩夢さんの活躍を詠んだ川柳。決勝2本目、世界初の大技を成功させながらも、得点が伸びませんでした。しかし、彼の怒りは3本目へのエネルギーに昇華され、さらに高く美しく空を舞ったのでした。

編集集中に、3句目を付け加えました。

編集後記

3月号は多様で充実した「子ども研究ノート」をいただいたので、実践報告は6月号の掲載とした。3本の中でも、この2月に大学の最終講義を終えられたばかりの滝口優先生の「子ども研究ノート・II」は、多感な中学生時代に、苦手だった英語の授業に端を発して、英語をテーマに展開された「人生物語」である。文中に、大学時代のセツルメント活動のお話があった。実は私も学生時代、夫や友人たちと（児童文化研究会の名でサークルを作り）、当時後楽園にあったバタ屋部落（ホームレス部落）にいた大勢の浮浪児たち。学校へ行けない子どもたちに。勉強を教えたり、童話や紙芝居を見せたりの実践活動を授業も（半ば）そっちのけで打ち込んでいた日々があった。戦後間もない頃は、そうした子どもや親がそここにいて、大学のサークル長屋の隣の部室は、セツルメントのサークルの部室だった。セツルメントの仲間たちは、文京区の氷川下の零細な（印刷工場の下請けを業とする）住民のエリアに、実践活動をしていたのを思い出す。むろん滝口先生の大先輩たちの話である。大学2年生の終わりになって、後楽園のバタ屋部落が行政に撤去され、することがないので勉強に打ち込んだのが私の青春だった。滝口先生の「子ども研究ノート」にその日々が思い出された。

（深谷和子：[kazukofukaya@nifty.com](mailto:kazukofukaya@nifty.com)）

〈編集委員〉

深谷和子（長）・湯浅俊夫・上島博・清文枝・土田雄一・大高志芳・吉野真弓・細江久美子

〈「風の便り」2022年3月号目次〉

今月の軽井沢 雲場池	細江久美子
今月の詩 「あなたに」 寺山修司	ゆあさとしお
子ども研究ノート I 「教えられること 教えられないこと」 考	明石要一
子ども研究ノート II 英語・非暴力・地域—多文化共生に生きる	瀧口優
子ども研究ノート III 韓国「2019年改訂ヌリ課程」改定過程の研究 —ヌリ課程はどう変わったか	清水陽子・丹羽孝
会員談話室	
近況報告	成澤布美子、今津尚子
句会 むさしの	安田勝彦、市原 潤、上島博
	編集後記（深谷和子）